

アルミ水素の優位性紹介

事業検討会議
価格や安全性



アルミ水素の将来性を概観図として示した

【富山】アルミを原料とする水素を原油の代替エネルギーとして活用しようとする建材大手の三協立山など10事業者が研究を進める「アルミ水素エネルギー事業検討会議」は、アルミ水素の事業としての優位性を示す概観図を制作した。今後は将来像に向けた調査などに取り

組み、政府が本格的な水素社会の確立を目指す2040年に向けた研究を続ける。

概観図「アルミ水素の将来性」では、海外から原料となるアルミチップを輸入、国内で製品化された後のアルミをリサイクルして水素を発生させ、電気自動車(EV)、

水素ステーションに活用する流れを図式化。一方で、水素発生の際に生じる水酸化アルミを海外に運ぶ可能性も示した。

優位性としては、アルミ水素の価格が現時点で1kgあたり1000円程度で安価であるほか、水素発生の際に二酸化炭素(CO₂)が削減できるため環境に優しく、アルミの形で貯蔵・輸送が可能で安全性が高いことなどをあげた。

15年に発足した同会議は三協立山や、隣アルミからの水素発生装置を開発したアルハイテック(富山県高岡市)など10事業者が参加。三協立山の花本悟・三協マテリアル社事業役員は「アルミ製品はリサイクルを前提に生産しているが、廃材も出るので水素という別の形での再活用には期待したい」と話す。